

平成24年度第3回経営協議会議事要録

日時 平成24年6月26日(火)15時
場所 KKRホテル名古屋 福寿の間
出席 学内委員5名 欠席なし
学外委員4名 欠席2名

会議成立

開会15時10分

議事に先立ち、学長からあいさつがあった後、総務課長から、本日の配付資料の確認及び会議日程等の説明があった。

引き続き、学長から、1.法人経営上の課題として、国立大学改革(国立大学改革強化推進事業、大学改革実行プラン)、2012年度職員給与への対応、2.中教審「教員の資質能力向上特別部会」の動向と対応して、教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策などについて説明があった。

これに対して、委員から新学部構想の動向等について質疑応答があった。

議 題

- 1.平成24年度第1回及び第2回経営協議会議事要録の承認について
学長から提議され、原案どおりこれを承認した。

- 2.平成23事業年度に係る業務の実績に関する報告書について

学長から提議され、学長から、標記報告書については、国立大学法人評価委員会に報告するものであることの説明の後、報告書の内容(大学の概要、全体的な状況、項目別の状況)、業務運営・財務内容等の状況及び特記事項について資料に基づき説明があった。

また、本日の意見を踏まえ、今後の役員会において最終決定し、6月30日までに文部科学省へ提出することについて説明があり、質疑応答の後、若干の字句修正等については一任願いたい旨述べられ、これを承認した。

委員からの質疑等 大学側の回答

教職大学院の充足率が伸びないが、大学の対応はどの様に行っているのか。
要因としては、愛知県の新卒の採用枠が依然として大きいこと、教職大学院のカリキュラムが学部学生の授業にセットされており魅力が伝わりにくいこと、教員自体に連携校との業務がオーバーワークになっていること、従来の大学院と教職大学院との理念、コンセプトが伝えきれていないことから説明会や模擬授業等を行っているが課題として残っている。また、新たに推薦入試を実施して学生募集を行った結果、志願者の時点では募集枠を超えているが、一定水準の学生を育てたいという観点から、質の保証を重視している。

努力すれば定足数は満たされるのか、そうでなければ、定員を減らす方策を考えるべきではないか。

中教審の修士レベル化の議論を受け、教員養成系の大学は、教職大学院を中心に大学院を見直していく方向で、より教職大学院の充実を図るよう舵を取らざるを得ない。そのため、国の政策と逆行することは避けたい。直進者にいかに伝えるかが課題である。愛知県、名古屋市からの現職教員の派遣枠を増やしてもらうよう働きかけている。

- 3.給与支給制度の改正について

学長から提議され、給与支給制度の改正について、昨年6月の閣議決定以降のこれ

までの経緯，国家公務員給与臨時特例法の内容，過半数代表・組合との交渉経緯，本法人の財務状況，学長としての見解，過半数代表への役員会提案など資料に基づき説明があった。

これらを踏まえ，国家公務員の給与の改定及び臨時特例に関する法律への対応として，一部準拠，一部独自の対応としたい旨資料に基づき説明があり，質疑応答の後，これを承認した。

愛知教育大学の対応が不十分だとして，文科省からクレームがくる可能性はないか。

自主的・自立的な労使関係の中で必要な措置を講ずることを文科省としての基本的立場としているので，ペナルティーはありえないし，あってはならない。

自主的にやったのだから，文句は言えないはずだということですか。

過半数代表との協議の中で財務内容も説明した上でぎりぎりの選択だった。

よくまとめられたと思う。国からの削減額やどの予算から削減するかなどはどこまで情報が入っているのか。

次の予算編成から削減する，といているが，今年の補正予算で削減するという解釈や次年度という解釈もあり，まちまちで現状ではよくわからない。

附属学校を持っていることが負担になるが，そのことをどう考えるか。また，企業であれば能力に応じて給与の差があるので高いか低いかの判断がありうるが，大学教員は一律に給与が支給されているので，相対的に高いか低いかに判断するのは難しい。そのため，人事評価した上で手当という形で保障することが必要になってくるが，将来的には，大学教員の給与のあり方についての議論となるだろうから，そこは今後の検討事項になるのではないか。愛知教育大学では大学教員に対する評価は実施しているか。

実施している。

費用捻出で苦勞されているが，増収策はあるのか。

増収策が一番問題である。教育研究基金は毎年1千万円を目標としている。

卒業生に2千円でも3千円でも寄付してもらえれば，億に近い額になる。

他大学では，クレジットカードで寄付できるようになっており，好評のようなので，まだまだ工夫の余地はある。

他大学の状況がわからないが，給与改定への取組はこの地域では先頭を切っているのか。

東海地区では早いほうである。

4. 2013（平成25）年度概算要求について

学長から提議され，白石委員から，プロジェクト分の要求順位8位の事業名等に誤りがあり，後日資料を差し替える旨説明があった後，資料に基づき，プロジェクト分として「小学校外国語活動を前提とした小・中・高での英語関連科目の連携を進める英語教員養成カリキュラムの開発と授業実践力を高めるための教育改革」をはじめ継続6件，「愛知県総合教育センターとの連携・協働による現職教員の体系的研修プログラムの開発」をはじめ新規2件及び別枠として「教員養成機能の充実」1件の計9件，基盤的設備等整備費分として，ものづくり教育を推進するための設備備品の新設をはじめ2件，施設整備費として，総合研究棟をはじめ16件の事業について，それぞれ要求順位，事業概要，要求額等の説明があり，質疑応答の後，これを承認した。

愛知教育大学が連携する「地域」とはどこを指すのか。

全県である。

刈谷市近郊の地域貢献はされているが、愛知教育大学をより理解してもらうためには、名古屋市を含め全県で行かないと全国的な立場に立てないと思う。資料でいう「地域」はどこを指しているのかが見えてこない。

プロジェクト要求順位7でいえば、協定を結んでいる愛知県総合教育センターと事業をスタートしながら展開して行きたいということで、決して名古屋市を排除したものではない。また、将来的には県を超えた事業を視野に入れている。

5. 2011（平成23）年度決算について

学長から提議され、白石委員から、資料に基づき、2011年度財務諸表全体の特徴、2010年度と2011年度の比較（貸借対照表、財産分析、損益計算書、人件費分析、常勤大学教員数の推移、教育研究経費等分析、収益分析、キャッシュフロー計算書、業務実施コスト）、2011年度収入・支出、財務諸表のまとめ、2012年度の主な財務計画について説明があり、現在、並行して監査法人による最終チェックをしている段階であるため、若干の修正は一任願いたい旨述べられ、これを承認した。

報 告

1. 2012年度会計監査人の選任について

白石委員から、資料に基づき、文科省に申請した2012年度会計監査人の選任について、申請どおり選任された旨報告があった。

2. 2011年度資金運用実績について

白石委員から、資料に基づき、2011年度の資金運用額、運用期間、収益額などについて報告があった。

3. その他

(1) 次回の開催日について

学長から、次のとおり報告があった。

第4回

日 時 平成24年8月6日（月）14時30分

場 所 名鉄グランドホテル 柏の間

閉会 17時10分